

いま いま  
宮城は現在も現実に立ち向かう。

2017.2.11

# NOW IS.

Vol.  
**10**  
毎月11日発行  
ナウイズ



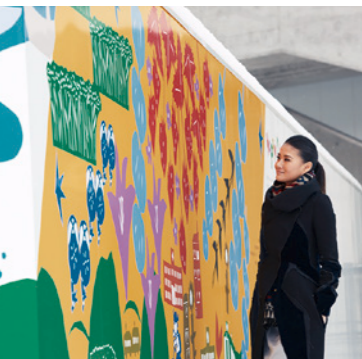
in  
山元



いちごワイン  
ワインは現在3種類を販売。「愛苺(まないちご)」などの名称は、スタッフ皆で考えました。



山元いちご農園  
いちごの栽培は、ハウス10棟と1万平方メートルの大型ハウスで行われています。



山下駅前の壁画  
長さ33メートルの巨大壁画は山元町の歴史や特産品が描かれています。

新しい山下駅



ほつき御膳 大きく味の良いほつき貝を厳選しています。



旬魚酒房 金八にて

宮城出身の私が  
東京にいるから  
できること。

NOW IS. | Inter-View | YAMAMOTO



▼ 今回訪れたまち ▲

福島県との県境に位置する山元町。冬から春にかけてが旬の「ほつき貝」のほかいちごやりんご、いちじくなどの果物栽培も盛ん。平成28年12月には、津波被災によって運休していた常磐線が再開しました。

PROFILE

原 綾子 (はら あやこ)  
1988年、宮城県仙台市生まれ。2012ミス・ユニバース・ジャパン。みやぎ絆大使。現在はトータルビューティーデザイナーとしてAH'S INTERNATIONAL株式会社を経営している。同社が企画した2016年の「キッズチャリティファッションショー」が「シアールピア女川」で開催された。

執筆：沼田佐和子

山元の食は冬が本番！  
ハウスに足を踏み入れると、むせかえるようなイチゴの香り。「あまーい！」。2012ミス・ユニバース・ジャパンでみやぎ絆大使の原綾子さんは、口元をほころばせます。この日最初に訪れたのは「山元いちご農園」。イチゴの栽培、出荷のほか、つみとり体験やイチゴカフェも併設している農園です。「山元には、子どものころ、どうしてもイチゴ狩りがしたいとわがままを言って連れてきてもらいました。あのときはお腹いっぱい食べたなあ」。原さんはそう言っていて、宮城で生まれた品種「もういっちょ」を頼張ります。ここでは平成28年に「ワインナリー」の操業も開始。いちごを使ったワインやスパークリングワインを作っています。1本作るのに2kgのイチゴを使っていくというワインを試飲し「イチゴを飲んでいるみたい！」と歓声をあげました。  
次に向かったのは、海の味覚  
「ほつき貝」が味わえる「旬魚酒房金八」。津波で全壊しながらも、地場産品への熱い想いとともにも再開した店です。「ほつきは大好き！お寿司屋さんに行く」と、必ず注文しています。「ほつきの握りや酢のもの、バター焼きなどほつき尽くしのメニューを味わえる「ほつき御膳」をいただきました。震災でまだ本格的な水揚げはできないんだけど、その日の朝にとれたものを使って、限定10食お出ししているんです」と話す女将さん。ひとくち食べて「こんなに味が濃くないんて！東京ではできない贅沢ですね」と口元を緩めました。  
何をしていいか迷ったらまずは宮城に行ってみて  
原さんがミス・ユニバース・ジャパンに選ばれたのは平成24年。震災が起きたのは、コンテスト出場に向けて、上京したばかりの頃でした。「3年かけて自分を磨き、いよいよブラッシュアップという時期に震災が起きま  
ります。「去年の夏、ショーに出た子のお父さんが、終演後、泣きながら私のところに来たんです。おれはもう、思い残すことはない」って。その方は津波にさらわれそうになりながら九死に一生を得たそうです。「あの時死んでいたら、こんな、お姫様みたいな娘の姿を見られなかった、本当にありがと」って。私は一生このショーを続けようって、その時決めました。  
最後に訪れたのは、常磐線の山下駅。内陸に場所を移し、平成28年12月に開業しました。真新しい駅を出ると、山元町の子どものたちが同じ舞台を経験します。「東京の子が宮城の現状を知る機会になっています」と原さん。「女川の子も、だんだん自分の経験話すようになってきました。交流はお互いにとって意味があると確信しています。忘れられないエピソードがある

NOW IS. | Inter-View | YAMAMOTO  
山元  
進化する被災地の息吹を感じる。  
原綾子さんと雪の降る山元町へ。

# NewsPaper Pick-Up

山元町

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。



平成23年3月22日の記事には、山元町内を南北に走る国道6号を越えて押し寄せた津波により、壊滅状態となった坂元地区の被害状況が記されています。町北部は常磐自動車道が堤防となったのに対し、常磐道が延伸していない町南部の坂元地区は、被害が広範囲に及びました。海岸沿いの6行政区全域と内陸の4行政区の一部が津波により水没し、多くの住民が避難所生活を送ることになった山元町。「三陸の被害ばかり注目されているが、山元もひどい被害だ。見捨てないでくれ」という住民の悲痛な叫びからも、当時のやるせない想いがひしひしと伝わってきます。

## 民家も駅もなくなった町



山元町沿岸部の被災者の集団移転先となった「つばめの杜」と「新坂元駅周辺地区」。平成28年10月24日の紙面には、両地区のスタートを祝う「新市街地まちづくり」の様子が掲載されました。式典では齋藤俊夫町長が「全国からの支援への恩返しのためにも、後世に誇れる町を一粒とあってつくっていききたい」とあきさつ。復興の進展を祝いました。「つばめの杜」には宅地201区画、災害公営住宅346戸、「新坂元駅周辺地区」には宅地40区画、災害公営住宅72戸が整備され、被災した1500人以上が住む見通し。整備中のもう一つの集団移転先、宮城病院周辺地区とともに、新しい山元へと一歩踏み出すまちづくりが進んでいます。

## まちづくりで復興の進展を祝う

©河北新報社 ※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。



無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在(平成29年1月)の坂元駅の様子をご覧いただけます。

COCOAR2のダウンロードは「Google play」「App Store」から  
COCOAR2に対応していない端末もごさいます。



(深山山頂から町内を望む)

## 現在の山元町

撮影地  
旧坂元駅

# AR

で見える  
定点観測  
Look at Miyagi

太平洋に接し、宮城県の東南端に位置する山元町。津波により町の37%以上が水没し、600名以上の命が失われました。太平洋沿いにある常磐線も津波に襲われ、町内の坂元駅も全壊しました。

震災から5年を経た平成28年12月、山元町を走る常磐線は線路を内陸に移して再開し、新しい町の形が生まれ始めています。

無料アプリ「ココアル2」をダウンロードしてご覧ください。

NOW IS. / Inter-View  
YAMAMOTO

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

01

この人がこの町を盛り上げてます！

さまざまな人たちとつながるイルミネーション。

活動を通して地域の活性化につながれば

「震災時にお世話になった方々へのお礼と、町の人たちが少しでも元気になれたらと開催したのが始まりです」と話す山元さんは、山元町小平地区で毎年12月から1月にかけて開催している手作りのイルミネーション「コダナリエ」の実行委員長です。

「コダナリエ」は、開催地「小平(こだいら)」、手作りの「こだわり」、イルミネーションの代名詞「ナリエ」、震災時からお世話になっている滋賀県東近江市の商工会青年部が作る「コトナリエ」に由来します。コトナリエは夏に開催しているイルミネーション。お互いに機材を貸し借りし、協力しあいながら毎年開催しています。

震災時、山下第一小学校は避難所となり、多くのボランティアの方々を訪れました。当時PTA会長を務めていた山元さんは、何か恩返しをできないかと思いつき、これまで小学校で毎年12月に開催していたイルミネーションを震災の年も行いました。



山元町 コダナリエ  
実行委員会 実行委員長  
やまかみ のぶこ  
山元 信彦さん



コダナリエのイルミネーション



YAMAMOTO

NOW IS YAMAMOTO NOW IS YAMAMOTO NOW IS YAMAMOTO NOW



山元町役場  
建築営繕室 技師  
おか 綾子さん  
平成28年4月から  
北海道札幌市より山元町へ派遣



仕上がりをチェックする岡さん



整備を進める災害公営住宅

住民参加型のまちづくり  
新市街地の災害公営住宅

「札幌市役所の職員として就職したのは、震災の年である平成23年でした。当時は、仕事を覚えることで精一杯でしたが、チャンスがあれば復興に携わりたいと思っていました」と語る岡さんは、入庁から6年目の平成28年4月に北海道札幌市から山元町に派遣されました。宮城病院周辺地区市街地に整備を進める災害公営住宅の建築が主な業務です。

岡さんが4月に山元町に来た時は、まだ造成工事の段階。夏からの工事着手に向けて、設計内容の確認、現場での工程確認や安全管理の確認など、準備を進めました。

山元町では住民参加型のまちづくりを進めていて、住民向けのワークショップを開催しました。みんなが使いやすいよう集会所の調理室を大きくしたり、自分の家が一目でわかるよう玄関のドアや外壁の色、材質を一戸ずつ変えたり、住民と一緒に

まちづくりをしてみました。「山元町では、住民も職員も顔が見えて、距離がとて近く感じました。震災からもうすぐ6年、一刻も早く入居してもらいたいという思いが強まりました。住民のみなさんが安心して、笑顔で過ごせる住宅になればいいと思います」。

岡さんが所属する山元町の建築営繕室では、派遣職員が全国から集まっています。現在、公営住宅の他にも役場庁舎や防災拠点施設など復興のための建物整備を行っています。山元町の職員と派遣職員がお互いに意見を出し合い、協力して業務を進めています。

「私の任期は1年、平成29年3月までです。住民のみなさんと関わり合うことができ、貴重な体験をさせてもらいました。また、山元町の職員の方や、いろいろな地域の派遣職員の方から、災害時の対応や苦労話、復興に向けての話をたくさん聞くことができました。札幌に戻った情報共有し、防災や減災に役立てたいと思っています」。

## 全国の派遣職員で力を合わせ 山元町の復興へ

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

02

この人がこの町を盛り上げてます！

# 明日への取り組み

地域と人をつなぎ、楽しみながら支えあう仕組みづくり  
(特定非営利活動法人つながりデザインセンター・あすと長町)



支援される側、する側の垣根を感じないようなイベントにしていきたいという「あすと食堂」。



「あすと食堂」の料理は住民の得意料理が並びます。この日のメインはおでん。約30食があったという間に売り切れました。

## 孤立を防ぎ、安心して暮らせる新たなコミュニティへ

「特定非営利活動法人つながりデザインセンター・あすと長町」は、仙台市太白区の長町地区を拠点として災害公営住宅でのコミュニティ形成を支援する団体です。仮設住宅でのコミュニティ形成の実現や災害公営住宅へ移住後のつながりの継続を目指した「あすと長町コミュニティ構築を考える会」を前身とし、長町仮設住宅で自治会長を務めていた飯塚正広さんや東北工業大学准教授の新井信幸さんが平成28年10月に設立。災害公営住宅という新たな環境に馴染めず閉じこもってしまう高齢者など、復興過程で孤立する人をつくらぬコミュニティづくりを提案しています。

住民同士の関わりを支援するイベントの一つが「あすと食堂」。料理を近隣住民同士と一緒に作り、振る舞い、同じテー

ブルについて会話をしながら食事を楽しみます。災害公営住宅の住民同士や災害公営住宅以外の地域住民との交流の場となるよう目指しています。「あすと食堂」は月2回ほど開催。定期的に開催し、日常の楽しみにしてほしいと考えています。

「あすと食堂」以外にも交流のきっかけ



年4回発行の「あすと新聞」やFacebookなどで、活動の様子を情報発信している

づくりを多数企画。まちあるきイベント、ふらりと立ち寄れるカフェ、音楽好きな人が思わず立ち寄りたくなる演奏会など、一人でも参加しやすく、人々の幅広いニーズに応えられるようなきめ細かさが重視されているのが特徴です。参加者も支援者もさらなる多様化をすることで、誰もが交流する機会をもつコミュニティの実現を目指しています。

復興から始まった人と地域をつなげる活動は、復興というカテゴリーにとどまらず、新しい地域コミュニティのつくり方として全国から注目を集めています。多様な社会の問題に対して活用できるような新しい共助の仕組みが、長町から生まれようとしています。

http://www.tsuna-cen.com/

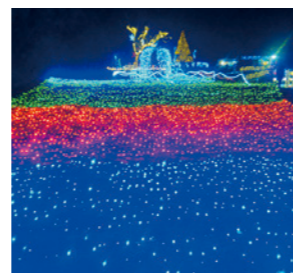
## STAFF'S VOICE 取材こぼれ話

編集後記

「平日は仕事、休日は消防団で、そのうえコダナリエ。正直言って大変。なんでもそこまでしてって言われると、うまく言葉にできないんだけど…。震災直後、捜索活動や救助活動をして、もどかし

い思いをたくさんしました。自分にできることって、本当に少ない。ほとんどが一瞬しか関われない。でも、イルミネーションなら、けっこう長い期間、まちが明るくなるでしょ。自分ができるとは

これだな、と思ったんです」。キーパーソンで紹介した山上さんの言葉です。被災地で暮らす人々は、もがきながらも、少しずつ答えを見出しています。もうすぐ、あの日から6年目。



飽きないようにと毎年飾りは少しずつ進化しています。

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,555人 | 行方不明者数 1,234人 | 平成28年12月31日現在 宮城県危機対策課調べ

# NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

## NEWS 01 復興に向けた絆力を強化フォーラム in 宮城を開催します!

県では、震災復興支援に取り組むNPO等の活動を知っていただくため、「宮城県NPO等による絆力を活かした震災復興支援事業」に取り組む14団体の活動報告会を開催します。東日本大震災により被災された方、社会貢献活動に関心のある方など、多数のご来場をお待ちしております。



日時/3月24日(金)10時~16時半まで  
場所/せんだいメディアテーク1階  
費用/無料  
申込み/一般社団法人みやぎ連携復興センター ☎.022-748-4550

県共同参画社会推進課 ☎.022-211-2576

## NEWS 02 東日本大震災の記憶風化防止イベント

東北4県(青森県、岩手県、宮城県、福島県)では、平成24年度から首都圏で復興フォーラムを開催しています。今年度は、東京都が主催する復興支援イベント「東京から元気を届けよう!復興応援2017」と併催し、多彩なメニューで「被災地の今」を伝え、震災の風化防止と支援の継続を呼びかけます。ぜひご来場ください。

日時/3月3日(金)※入場無料  
I部 11時半~13時 「東京から元気を届けよう!復興応援2017」  
II部 13時半~16時 「東北4県・東日本大震災復興フォーラムin東京」  
場所/東京国際フォーラム(千代田区丸の内3丁目5-1)  
東日本大震災風化防止イベント事務局 ☎.019-625-1342 https://fukkou-forum.jp  
申込締切/2月20日(月)

## NEWS 03 「山元町夢いちごの郷」親子ふれあいマラソン」開催のご案内と参加者募集

今年も早春の山元町内を駆け抜ける「親子マラソン」を開催します。マラソン大会は震災以降休止していましたが、昨年度から再開しました。「子どもたちに、走りながら復興を感じてもらえたら」との想いで、参加者には豚汁が振舞われる予定です。特産品のいちごが当たる抽選会も予定しています。ご参加、ご来場をお待ちしております。



日時/3月26日(日)※雨天決行  
場所/山元町つばめの杜中央公園(開会式)  
スタート/つばめの杜中央公園西  
ゴール/同公園内  
時間/8時~9時半(受付)、スタート/10時~  
参加種目/①親子1.3キロ(5歳~1年生)10時~  
②親子1.3キロ(2・3年生)10時20分~  
③小学校中学年1.3キロ(3・4年生)10時40分~  
④小学校高学年2キロ(5・6年生)11時~  
参加費/親子1,500円・小学生1,000円  
申込締切/3月5日(日)  
詳しくは、Facebook「山元町 夢いちごの郷 親子ふれあいマラソン」をご覧ください。  
農産物直売所「夢いちごの郷」、または山元町ふれあいマラソン実行委員会事務局、担当/伊藤 ☎.0223-37-1115(夢いちごの郷)  
fureai1115@gmail.com (山元町ふれあいマラソン実行委員会事務局)

## NOW IS / MIYAGI MEDIA INFORMATION

### 今の被災地をリアルタイムで

SNSでは、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。Facebook、Instagram、Twitterをご覧ください。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。



※常設線再開を祝うコメントが書かれています。旬魚酒房 金八(山元町) [2017/1/24]

各SNSの検索窓で

### 復興情報をお伝えします

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS取材チームによるブログで情報を発信します。



みやぎ復興情報ポータルサイト <http://www.fukkomiyaagi.jp>

## Theme 10 コミュニティづくり

被災後、新たな環境での生活をスタートさせる時、  
どうやって、地域との関わりを深めていったら良いのか。  
災害が起こった時に、助け合えるコミュニティをつくるために、  
まずは簡単なことから、段階を踏んで取り組んでみましょう。

### 回覧板



隣近所の顔を知るために  
回覧板を手渡しで回そう

ご近所さんと急にコミュニケーションを取  
ることは難しいもの。まずは、ドアノブにか  
けてしまいがちな回覧板を、手渡しで回し  
てみましょう。それだけで、隣近所にどんな人  
が住んでいるのか知ることができます。

### ゴミ拾い



家周辺のゴミ拾いなど  
隣組単位の活動に参加！

続いてのステップは、マンションや近隣住民  
同士でやっているゴミ拾いなどの簡単な活  
動に参加してみることに。繰り返し参加して  
いるうちに、あいさつや世間話など、自然な形  
で交流が深まっていくはず。

### 地域活動



地域活動に参加して  
さらに関係を深めよう

町内会や子供会、PTAなどの地域活動に参加  
するようになると、さらに地域とのつながりも  
深まります。お祭りや防災訓練は、参加しやす  
いイベントのひとつ。家族やご近所の人を誘っ  
て足を運んでみましょう。

取材協力：東北大学災害科学国際研究所 松本 行真 准教授

### 防災コラム Vol.10

- ★コミュニティ形成に即効薬はない！
- ★日常の積み重ねが災害時に役立つ！
- ★自分たちの手で地域をつくろう！

コミュニティづくりには、特別なコツや即  
効性のある方法はありません。あいさつや  
世間話など、ごく普通の日常を積み重ねて  
いくことが、速回りのように見えて実は一  
番の近道。そうやって深めていった関係性  
は、災害の場面でも役立ちます。まずは、行  
政や人まかせにするのではなく、自分たち  
の手でより住みよい地域をつくっていく  
意識を持ちましょう。

東北大学災害科学国際研究所  
松本 行真 准教授



リーディング大学院に所属。グローバル安全学トップ  
リーダー育成プログラムを担当。福島県いわき市沿岸部  
の住民組織の生活実態に関する基礎調査などに携わる。